

BERC・JABES 共催 経営倫理シンポジウム・2012 開催報告

開催日：2012年11月21日（水）14：00～17：00
会場：国際文化会館 岩崎小弥太記念ホール
参加者：120名
テーマ：企業不祥事と経営責任

【スケジュール】

14：20-14：30	開会の挨拶	鳥原 光憲 BERC 理事長
14：30-15：30	基調講演	出見世 信之氏（明治大学教授） テーマ「企業不祥事と経営責任 ～今求められるコンプライアンスとコーポレートガバナンス～」
～休憩～		
15：40-17：55	パネルディスカッション	パネリスト 出見世 信之氏 明治大学教授 樋口 晴彦氏 警察大学校教授 橘・フクシマ・咲江氏 G&S Global Advisors 代表取締役社長 佐野 廣二氏 横河フィールドエンジニアリングサービス(株)常勤監査役 パネルチェア 水尾 順一 BERC 上席研究員・駿河台大学教授
17：55-18：00	閉会の挨拶	高橋 浩夫 JABES 会長

【開催報告】

経営倫理実践研究センター（BERC）は日本経営倫理学会と共催で11月21日、「企業不祥事と経営責任」と題する「経営倫理シンポジウム・2012」を開催。会場は東京都港区の国際文化会館岩崎小弥太記念ホール。日本経済団体連合会、日本経営倫理士協会後援。

最初に BERC 理事長の鳥原光憲氏が挨拶。「企業不祥事の防止が、制度や仕組みの問題でなく、経営倫理の根幹に関わるテーマになっている」などと述べた。

基調講演は、明治大学教授の出見世信之氏。学者の視点で、経営者の倫理的行動などについて論じた。

まず「企業と倫理は両立しない」などと、事業活動と倫理的活動を別とする考え方の問題点を指摘。「経営者にはさまざまな責任があり、それを履行するための仕組みとしてコンプライアンス、コーポレートガバナンスがある」と説明。

コンプライアンスは「外から強制される側面もあるが、経営責任を果たすために、社会が企業に何を求めているか感じ取り、それに応える、という主体的な側面もある」。コーポレートガバナンスについては「指揮と統制のバランスが大切。社会の中で活動する企業の目的と関わるもので、絶えず熟慮が求められる」。

企業内倫理教育について「不祥事防止の知識の提供だけでなく、風通しをよくすることにもつながる。特に、集合研修でケースメソッドなどを用い、意見交換をしながらやることは、気づきが生まれるとともに、何かあったら相談できる職場環境をつくり、不祥事防止に有効」という話もあった。



基調講演を行った出見世信之・明治大学教授＝国際文化会館岩崎小弥太記念ホールで



パネルディスカッション＝国際文化会館岩崎小弥太記念ホールで

後半はパネルディスカッション。最初にコーディネーターで BERG 上席研究員の水尾順一氏が 1990 年代前期から今日までの「経営倫理のあゆみ」などを紹介して問題提起。続いて研究者、会社役員、監査役の立場を代表する 3 人のパネリストが登場。

まず警察大学校教授の樋口晴彦氏が、自身が行った 18 事例の組織不祥事研究の分析結果を提示。「うち 16 例は、リスク管理制度が整備されていたのに、発生した。不祥事が起きた場合、その対策として新たな制度をつくるのではなく、従来の制度がなぜ機能しなかったかを、分析すべき」と強調。

G&S Global Advisors 代表取締役社長の橘・フクシマ・咲江氏は、国内外での役員経験などを踏まえて「日本のコーポレートガバナンスは、制度は作られているので、今はその運用が課題。制度を生かすにはやはり人が大事」。さらに「ガバナンスには外部の目、ダイバーシティも重要。女性の取締役が多い企業は不祥事が少ない、というデータもある」と話した。

横河フィールドエンジニアリングサービス常勤監査役の佐野廣二氏は、同社を含む YOKOGAWA グループのコンプライアンス経営を紹介。「監査役、内部監査人、公認会計士の“三様監査”の実施により、コーポレート・ガバナンス機能を強化。その結果、リスクそのものが企業倫理にあると気づき、企業行動規範を制定した」と説明した。

その後、出見世氏を加えた 4 人のパネリストが、会場からの質問に答えながら、経営者のあり方などについて議論を深めた。

最後のまとめの中で水尾氏は、資生堂勤務時代、同社名誉会長で BERG 前理事長の福原義春氏から「企業倫理を定着させるにはリーダーが言い続けることが大事」と言われたエピソードを披露。

閉会の挨拶に当たった日本経営倫理学会会長の高橋浩夫氏は「BERG 創設者の故・水谷雅一氏が研究のための学会、実践のための BERG、人材育成のための経営倫理士協会を設立した意義は大きい。BERG15 周年の節目に、その歩みを振り返り、経営倫理の原点を見つめ直すことも大切」と締めくくった。

(BERG ニュース 52 号より抜粋)